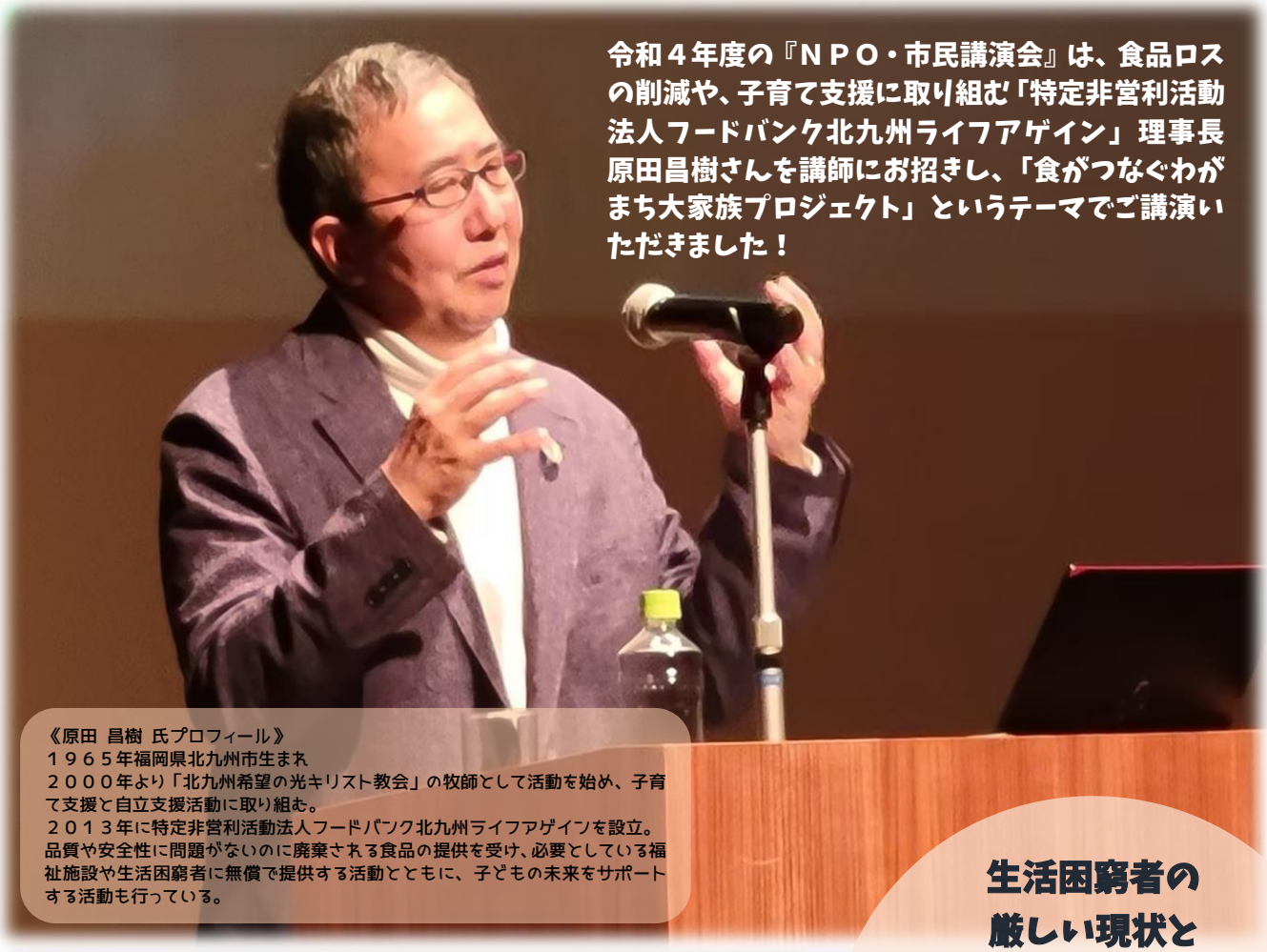
キラ☆キラ

北九州市市民活動サポートセンター

No.237
令和５年冬号

目次

１～２Ｐ　NPO・市民講演会
３～４Ｐ　サポの日
５Ｐ　活動体験プログラム
６Ｐ　所轄庁からのお知らせ
７Ｐ　サポセンからのお知らせ
８Ｐ　421Lab.のページ



令和４年度の『ＮＰＯ・市民講演会』は、食品ロスの削減や、子育て支援に取り組む「特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン」理事長原田昌樹さんを講師にお招きし、「食がつなぐわがまち大家族プロジェクト」というテーマでご講演いただきました！

《原田 昌樹 氏プロフィール》
１９６５年福岡県北九州市生まれ
２０００年より「北九州希望の光キリスト教会」の牧師として活動を始め、子育て支援と自立支援活動に取り組む。
２０１３年に特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲインを設立。品質や安全性に問題がないのに廃棄される食品の提供を受け、必要としている福祉施設や生活困窮者に無償で提供する活動とともに、子どもの未来をサポートする活動も行っている。

生活困窮者の厳しい現状と温かい支援のお話ありがとうございました！

講演会の内容については次ページの記事もぜひご覧ください。→

団体 HP

食がつなぐわがまち大家族プロジェクト

R4.11.6

講師：特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン
理事長　原田　昌樹氏

令和４年度のＮＰＯ・市民講演会は、子どもの館子どもホールにて開催しました。
講師の原田さんから、子ども食堂を通じて食べ物が人をつなぐ力で子どもたちを幸せにする取り組みなどについて、お話いただきました。

☆団体について

フードバンク北九州ライフアゲインは2013年任意団体として設立し（設立当初は福岡県内で唯一のフードバンク団体）、2014 年にNPO 法人化、2021 年 3 月に認定 NPO 法人になりました。同法人は、「食べ物のいのちは人のいのちにつながっている」という理念のもと、フードバンク活動、子ども食堂の運営等を行っています。

☆子どもの養育支援について

北九州市内では、母子世帯を中心に１万５～６千世帯の家族が生活に困っているそうです。

しかし、福祉の制度に頼ろうとせず一生懸命働いて頑張っているので外からは見えづらくなっています。

そういった家庭と食料支援をきっかけに、連絡をとり、適宜に面談を続けることで信頼関係を築き、悩みを聴き、必要なサポートができるよう取り組んでいます。

☆なぜ子どもの養育支援が必要なのか

原田さんは、現在の活動を始める前から牧師として街の夜回りをし、人生につまずいた人や行き場を失った人を支援してきました。

いろんな人と接していく中で、すべての問題の大きな要因として幼少期に十分な愛情を与えられていないことに端を発するということに気づきました。

自身も里親として子育てをした経験から、貧困の連鎖の要因が幼少期の養育環境にあり、幼少期の愛情の必要性を強く感じました。

子どもにとっては、「私は大切にされている」と感じられる環境が必要であり、早い段階で支援の手を差し伸べないと、成長すればするほど、改善が難しくなると実感しているそうです。

☆「わがまち大家族プロジェクト」について

法人が拠点を置く八幡中央区商店街では、人口減少と高齢化が進み、子育て世帯が減少しています。また、単身世帯が増加し、家庭の孤立化が進んでいます。

地域に開かれたこども食堂が子どもたちや家庭が地域とつながる場になれば、家庭の孤立化を防ぐことができると考えています。

ひとり親世帯など経済的困難を抱える家庭と地域の人たちがつながり、まち全体で子どもを育てる「すべての子どもたちが大切」とされる社会の実現を目指していることなど活動への思いを語ってくださいました。

講演を聴いて、満足に食事も摂ることができない子ども達がいる家庭の実態に胸が痛くなりましたが、フードバンク活動や子ども食堂を通じて、子どもたちの笑顔が増えればと感じました。

第二三三回
神無月さぽぉとせんたーの日
発表団体
特定非営利活動法人古典落語を守る会
副理事　奥村　直樹氏

「法人の成り立ち」

今では４０年近く継続している「北九州市民寄席」の継続とともに、古典落語の文化を継承し活性化すべく任意団体として活動を開始。より多くの方の支援を受けて古典落語鑑賞の機会を提供するため NPO 法人化を検討し、平成２６年８月８日に「特定非営利活動法人古典落語を守る会」を設立しました。

「古典落語とは？」

古典落語は主に江戸時代から明治時代に作られ、落語はマクラ→本題→オチで構成される座ったままの一人芸で、高度な技術を要する日本の伝統芸能です。

その内容の多くは庶民の生活を中心としたものであり、広く庶民に親しまれています。

「事業と近況」

主な活動の一つである「北九州市市民寄席」は年４～５回の定期開催により、市民に認知度が高まり、順調に客足を伸ばしていきました。新型コロナウイルス感染症で事業がままならないこともあったそうですが、今は徐々に活動を再開されています。

「北九州市の落語について考える」

「北九州市民には文化にお金を支払う感覚がない？」というテーマで参加者と話し合うワークショップを開催。参加者は「チケットを購入してでも観にいきたい！」という方が比較的多い印象でしたが、皆さんはいかがですか？

「落語を楽しむポイント」

発表会の内容から落語を楽しむための豆知識をチラッとご紹介！

☆落語家の階級☆

落語家には、「真打ち」「二ツ目」「前座」「前座見習い」という階級がある。

☆出囃子☆

落語家が高座に上がるときに、流れる音楽（お囃子）。（著名になると専用のお囃子がある）

☆太鼓の音☆

太鼓を叩くタイミングで「一番太鼓」「二番太鼓」「追い出し」に分類される。
開演30分前に打つ一番太鼓は「どんとこい、金持ってこい」、終演後の追い出しは「でてけ、会場は空」という言葉を太鼓で表現している。

寄席を観覧される時は、
太鼓の音も
楽しんでください☆

「落語を聞いてみる」

市民活動サポートセンターの相談員で朗読の会「宙（そら）のサカナ」の野口和夫代表が特別ゲストとして登壇し、落語を実演しました。

参加者から「うちの団体で発表してほしい」や「古典落語を守る会」を応援したい等のお声をいただくほど大好評でした！

「賛助会員募集中！」

←ご支援は
こちらから！

古典落語を守る会では、賛助会員を募集しています。会員となることで受けられる特典もありますので、落語が好きな方、これから学びたい方は要チェックですよ！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

当日のマリンバ演奏はこちらから⇒⇒⇒

当日の竹チェロ演奏はこちらから⇒⇒⇒

第 234 回
サポートセンターの日 NPO 活動発表会

ハートウォーミング クリスマスコンサート

発表者　ＮＰＯ法人フュージョン・フォア
ＮＰＯ法人わくわーく

人、社会、地域を大切にする活動を行っている２団体。共に美しい音色で演奏するという共通点もあります。クリスマス時期ということで、活動発表も兼ねたコンサートを開催しました。

ＮＰＯ法人フュージョン・フォア

障がい者と健常者が音楽活動を通じ、共演（フュージョン）することにより、音楽活動を通じて、障がい者が社会活動に積極的に関われる社会をつくることを目指しています。

今年度は、前年度に続き「北九州市 NPO 公益活動支援事業」の補助金を受け、２会場で、ダウン症のマリンバ奏者・白井小百合さんとジャズピアニスト・チャンさんのコンサートも開催。

今回のサポートセンターの日でも、小百合さんとジャズピアニストの上村貴子さんとの演奏を楽しんでいただきました。

小百合さんの母でもある白井浩子代表は、今回の共演で「今後、竹チェロ合奏団の方々のように、多様性に富んだ仲間を増やしていくことも目標。障がいのある人の生き方の一つとしても、私達の活動を発信していきたい」と話してくれました。

これからも北九州市が豊かな多様性を持ち、住む価値の高い街として発展するよう、微力ではありますが、努力していきたいと思っています。

北九州市内の施設等で演奏をさせていただける機会があれば、喜んでお引き受けさせていただきます。

<お問合せ>
NPO法人フュージョン・フォア
090-7295-9411(シライ)

発表者の皆さま

ＮＰＯ法人わくわーく

わくわーくでは、誰もがお互いを認め合い、こころ穏やかに安心して暮らせる社会を目指し、「こころを健康にするために、まちごと健康にすることに決めました」というスローガンを掲げ、さまざまな地域コミュニティ活動を実践しています。

竹チェロを製作する Bamboo boon プロジェクトもその中から生まれました。

北九州市でも問題になっている竹害。竹は繁殖力が非常に強く、竹林は放置されると広葉樹林を浸食します。広葉樹は深く根をはりますが、竹は表層にしか地下茎をはらず、地盤が弱くなり、土砂崩れなどのリスクが生じるため、竹林は適切な管理・整備が必要です。竹チェロは、こうした竹林整備により切り出された竹を原材料として制作されます。

わくわーくでは、竹チェロ作りのワークショップや定期的に演奏の練習会も行っています。今回は、そのワークショップ・練習会へ参加されている方々が中心となって発足した「竹チェロ合奏団」の皆さんに演奏していただきました。さらに「クリスマスマルシェ」も開催。素敵な手作りのお菓子や雑貨が並びました。

わくわーくの３つの事業

ＮＰＯ法人わくわーく
様々な取り組み内容は
こちらからご覧ください➡➡

NPO 活動体験プログラムについては
サポセンの note 記事もご覧ください！

NPO 活動体験プログラムレポート②

特定非営利活動法人 アニマルケースワーカー協会

西日本総合展示場で１１月２７日に行われた「北九州動物愛護フェスティバル」が、現場体験となりました。当日は朝から会場設営など、準備でおおわらわ。参加者はゲージに入った猫ちゃんへの飲み水のセットや見守り、物販バザーのお手伝いなどで大活躍！課題作品の発表（掲示物）もばっちりでした。１２月３日には、３回の体験を通しての振り返りを行いました。保護猫が新しい飼い主さんの所でしあわせに暮らすまでには、飼育できる環境にあるかなどの調査や、トライアルなどの過程があり簡単ではないこと、飼うことはできないけれど募金をすることで、大切な命を守る活動を支援している方々が多くいることなどを肌で感じ取ることができたという感想、「今後の仲間づくり」については、譲渡会などのイベントに来た方への声掛け、ＳＮＳの活用（ホームページよりはＳＮＳのほうがヒットしやすい）など、学生から貴重な意見が寄せられました。最後まで充実した体験プログラムとなりました。

NPO 法人わくわーく

１２月、八幡東区の『ココクル平野』で開催された、わくわーくさん主催のクリスマスイベント『ココクルクリスマス』にて現場体験しました！参加者はイベント会場一角に販売ブースを出店。イベント当日は、道路が白くなるほど雪の降る、寒い一日でしたが、近所の方や知り合いの方、施設の利用者などなど…多くの方が来場され、参加者の販売ブースも忙しくしていましたよ。もともと、「イベント企画から参加者と」という想定でしたが、企画・調整等に十分な時間が確保できず、団体さん主催のイベントを体験していただく形となりました。（事業の反省点です…。）イベントを終え、参加者からは、「ここ（ココクル平野）が理想。また活動に参加させてもらえるなら、小橋さん（わくわーく代表）の動きを観察して学びたい！」という感想をいただきました。今回の活動体験プログラムが、NPO 活動を担う人材育成の一助となり、延いてはＮＰＯ活動の活性化に繋がると素晴らしいなと感じました。

次回春号がレポート最終回！
クロージングの様子を
レポート予定です。

NPO 法人光楽園

市内ＮＰＯ法人から２名、市内高校から３名の参加者を迎え、活動体験プログラムを行いました。光楽園施設や体育館での屋内運動プログラムや、公園を広く使った自由な屋外活動、マクロビオティックな給食、法人の所有する市内各所の施設を見学・体験しました！

当初、現場体験は、年末の餅つきを予定していましたが、コロナやインフルエンザの影響により、やむを得ず見学体験となりました。光楽園の活動の特徴は、大人が子どもに“与える”、“させる”のではなく、一人ひとりに丁寧に“関わり”、本来の生きる力を引き出し、支え、又は補うように設計されているところ。参加者は、元気いっぱい物怖じしない子ども達に悪戦苦闘しながらも、子育て支援の難しさと奥深さを感じていました！実際の現場を生で体験することができ、とても学びの深い時間を過ごすことができました。今回の学びや人との繋がりを今後の活動等に活かしていただければ幸いです。

NPO 法人森遊会

オリエンテーションでは、団体の活動内容などの説明を受け、事前準備では、木々の成長に有害なツル採りなどを体験、野外活動や道具を使った作業での安全面について学びました。そして、現場体験。小学生を対象としたイベント「自然体験の旅をしよう！」のツル採りからクリスマスリースづくりにスタッフのお手伝いとして参加しました。集合時間の３０分前に集まり、リースの材料となる木の実や、ツルがある登山コースを下見し、危険な場所はないかをしっかり確認！リースづくりでは、ケガしないよう道具の使い方を説明するなど、子どもたちが安全に楽しく過ごせるよう見守りを行いました。子どもたちも道具を器用に使って個性・感性あふれる飾りつけで無事リースが完成し、大満足でイベントが終了しました。参加者から今後も森遊会の活動に参加していきたいとの感想もいただき、こうした縁を繋いでいくことも活動体験プログラムの大きな意義だなと感じました。

令和５年
４月１日
から

電子申請方式が変更になります！

令和５年３月１日、内閣府 NPO ポータルサイトに『ウェブ報告システム』がリリースされ、ウェブ上で各種申請・届出等を行うことができるようになります。これを受けて、北九州市が提供していた Graffer での各種手続きの電子申請等の機能を令和５年４月１日付で廃止し、内閣府 NPO ポータルサイトに集約します。

ウェブ報告システムをご活用ください

・申請・届出書類等の提出・修正が Web 上で完結！

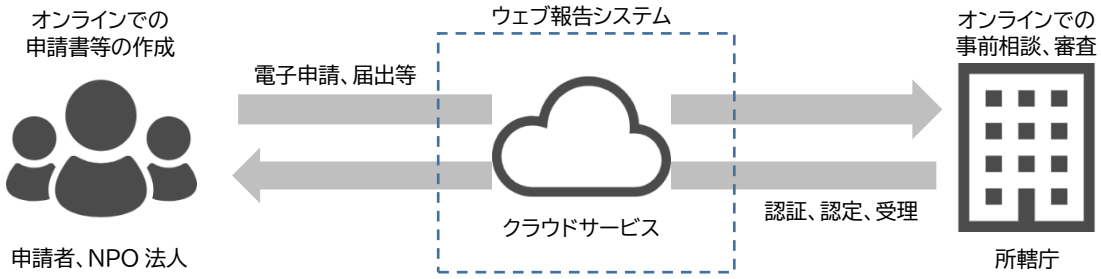
Web 上で各種手続きが完結します（住民票や登記事項証明書等、公的に発行される原本の提出が必要な一部添付資料は引き続き郵送等が必要です）。

・活動計算書等の財務諸表の自動計算をしてくれます！

会計科目と金額を入力するだけで自動的に計算書類を作成できます。将来的には外部会計ソフトと連携することが出来るようになる予定です。

・申請・届出等の履歴情報が保存され、次回提出へ活用できます！

申請・届出等を行った情報がシステム内に保存され、情報の履歴管理ができるようになります。



上のシステムの稼働に伴い、以下の Web 上の機能を**令和５年４月１日**から内閣府新システムへ一元化します。

① 法人検索・閲覧機能

キラキラネットの法人検索・閲覧ページは内閣府の法人検索ページへリンクします。法人の基本情報や事業報告書等の検索、閲覧は引き続き内閣府 NPO ポータルサイトで行うことができます。

② オンライン申請

現在受付している北九州市電子申請システム（Graffer）での電子申請の受付を終了し、令和5年度からオンライン申請手続きは、内閣府ウェブ報告システムでのみの受付となります。

※詳細は後日改めてキラキラネット内でご案内します。
※窓口での紙提出や対面相談は従来通り受付しています。

本件に関し、ご不明な点等ございましたら、お問合せください。
市民文化スポーツ局市民活動推進課　担当：安部
℡：093-645-3101

【NPO 法人わくわーく 内閣府特命担当大臣優良賞　受賞！】

令和４年１２月２６日（月）　総理大臣官邸において「令和４年度　バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」の表彰式が行われました。

この表彰式において、北九州市八幡東区平野に拠点を置く「NPO 法人わくわーく」の取組が、内閣府特命担当大臣優良賞に選定され、表彰されましたのでご報告です。

この日は関係省庁、都道府県、政令市から推薦のあった全国の１４団体のうち

・内閣総理大臣表彰　１団体
・内閣府特命担当大臣表彰優良賞　２団体
・内閣府特命担当大臣表彰奨励賞　２団体

計５団体がそれぞれ各賞を受賞し、岸田内閣総理大臣および小倉内閣府特命担当大臣主出席のもと表彰式・記念撮影などが行われました。

～バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰とは？～
高齢者、障害者、妊婦や子ども連れの人を含むすべての人が安全で快適な社会生活を送ることができるよう、ハード、ソフト両面のバリアフリー・ユニバーサルデザインを効果的かつ総合的に推進する観点から、その推進について顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を顕彰し、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する優れた取組を広く普及させることを目的とする。

ＮPO 法人わくわーくでは、
竹林整備により切り出された竹を資源として竹チェロを製作する「**Bamboo boon プロジェクト**」
市内各所で発生する使用済みコピー用紙をアップサイクルする「**Kamikuru プロジェクト**」
市内作業所で作られるお菓子類を市内企業の事業所に配置する「**おいしい輪プロジェクト**」
など様々なプロジェクトを進めています。

今回、バリフリー・ユニバーサルデザインの推進に寄与する“モノ”や“コト”に関してその功績を顕彰する同表彰において、

・SDGsの推進などといった時勢を的確に捉え、企業、学校、行政等の多様な主体とのネットワークにより、事業所利用者の雇用機会拡大や収入増加に資する活動に取り組んでいること。
・地域社会との新たな出会いを通じて、事業所利用者が新たなスキルと自信を身につける機会を提供していること。
・商店街等でのイベントにも積極的に参加するなど活動の場を広く展開し、地域経済の活性化にも寄与していること。

などが功績として高く評価され、同賞の受賞となりました。

表彰式後には、岸田総理大臣はじめ審査員の方々がわくわーくさんの展示の前に足を運ばれ、小橋理事長から竹チェロに関する取組のほか、各プロジェクトの内容について説明を受けられていました。

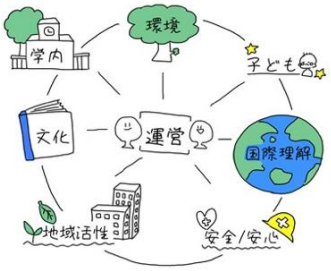
岸田総理大臣に団体の取組について説明する
小橋理事長

内閣府のバリアフリー・ユニバーサルデザイン推進に関する取り組みはこちらをご覧ください。

421Lab. だより

このページは北九州市市民活動サポートセンターと共同で作成しました！

こんにちは！北九州市立大学地域共生教育センター（通称 421Lab.）です。
421Lab.は、地域で活動したい北九州市立大学の学生と、学生と一緒に課題を解決したい地域の方々を繋ぐ活動をしています。
本号でも 421Lab.の学生プロジェクトについて紹介していきます。



421Lab.わくわくキッズプロジェクト

421Lab.わくわくキッズプロジェクトは、
「**楽しく学べる遊びを通じて子どもたちに特別な時間を届ける**」ことを目的に活動しています。

幼稚園やイベントで住宅端材を使用したイスや写真立ての作成を行う「**北九州みらいキッズプロジェクト（大英産業株式会社主催）**」への参加、**コラボラキャンパスネットワークさんが主催する夏祭りやクリスマス会でのブース出展、交流企画等**を行っています。

工作遊びでは、一人一人個性溢れるものが出来上がり、子どもたちの満足げな顔や自慢げに作品を見せる様子を見られるのが、とても幸せです。

その他にも、「421Lab.英語で遊ぼうプロジェクト」との合同企画、市民センターでのイベント等、地域で開催される子ども関連のイベントに参加をしています。

夏号では 421Lab.学生運営スタッフについて、
秋号・冬号では、421Lab.に所属する 21 プロジェクトから１プロジェクトずつピックアップしてご紹介しました。
421Lab.では、本号で紹介した地域の子どもたちと関わるプロジェクト以外にも、清掃や SDGs など様々な地域活動を行っています！
詳しくは、421Lab.のＨＰなどをご覧ください。

〒802-0841
北九州市小倉南区北方４丁目２番１号
公立大学法人北九州市立大学
地域共生教育センター（通称：421Lab.）
TEL　093-964-4092

公式 HP　Twitter　Instagram

北九州市
市民活動
サポートセンター

開館時間　月曜日～土曜日　10:00～21:00
　　日曜日・祝日　10:00～19:00
休館日　第１・３・５月曜日、年末年始

北九州市八幡西区黒崎三丁目 15 番３号（コムシティ３階）
☎ 093-645-3101　FAX 093-645-3102
HP https://www.kirakirakitaq.jp　info@kirakirakitaq.jp